

ふたご座流星群の観測に挑戦!



そらんぽ四日市  
ホームページ

毎年12月14日ごろには、ふたご座流星群が見られます。今年は一晩中月明かりがなく空が暗いため、観測条件は最良です。

中でも流星の観測に適しているのは、明け方ごろとされています。明け方の空では、宇宙空間に漂う塵が地球にぶつかりやすくなり、たくさんの流星が見られるためです。

これは雨の中を車で走る様子をイメージしてみると分かりやすくなります。車のフロントガラスには雨が当たりますが、後ろ側にはあまり当たりません。車の動きを地球が太陽の周りを回る公転運動だとすると、このフロントガラ

スがいわば明け方の空、後ろ側が夕方の空です。

冬の明け方は寒く、起きるのも大変ですが、たくさんの流れ星を見てみたい人には、明け方の観測がおすすめです。もちろん、夜布団に入る前にも明るい流星を見るチャンスはあります。なお、博物館では14日の19:00~21:00に伊坂ダムサイクルパークで観望会を開催します。天文ボランティアが当日の星空の解説をしますので、冬の星空も一緒にお楽しみいただけます。お気軽にご参加ください。



☎ 博物館・プラネタリウム (TEL) 355-2700 (FAX) 355-2704

復活した磯津の鯨船行事

磯津の鯨船行事は、塩崎神社の祭礼として大正9(1920)年に始まり、鯨船は「大正丸」と呼ばれています。張子の鯨と鯨船山車が、鯨の発見と追跡、鯨による反撃、船からの鯨突きなどの所作で捕鯨を再現しています。

鯨船行事は、本市を含む北勢地方に集中的に分布する陸上の模擬捕鯨行事です。鯨を大漁や豊饒の象徴に見立てた民俗行事として高い価値があります。

行事はこれまで何度か中断されていましたが、地元の熱意により令和4年には21年ぶりに再興されました。現在は、神社の祭礼に合わせた9月23日直近の土・日曜日に行われています。

今年も、「とこしょーい、とこしょーい」「任しとっけ、任しとっけ、若い衆に任しとっけ」「エジャエジャ エジャエジャ」などと活気ある掛け声を響かせながら、赤や金の華やかな色彩で装飾された鯨船が区内を練り歩きました。沿道には、子どもから大人まで多くの観衆が集まり、大変にぎわいました。来秋、ご覧になってみませんか。



鯨船と鯨が攻防する磯津の「鯨船行事」

☎ 文化課 (TEL) 354-8240 (FAX) 354-4873